

6 月度月例研修会

第2回 読書応援団要請講座

講師 風間美智子 会員



■ 紙芝居の歴史・・・紙芝居は日本で誕生した文化です。

現在のような携帯の紙芝居は、1930年頃 東京の下町に誕生したといわれている。1930年の日本は、世界大恐慌のあらしの中で失業者がたくさんいた。その職を失った人たちが舞台と紙芝居と菓子を自転車につんで街角に立った街頭紙芝居である。紙芝居を演じる事はそう難しい事ではなかったし、飴等をうることで日銭を稼ぐことができた。

1931年東京には約2000人の街頭紙芝居屋さんがいて子どもたちを魅了していた。しかし、非衛生的であり内容が非教育的だという批判が大人たちから出た。

一方、紙芝居の形態を生かし、内容を変えてこどもたちに演じようと考えた人たちがいた。教材紙芝居、幼稚園紙芝居である。

1938年には「日本教育紙芝居協会」が設立された。しかし、亜細亜・太平洋戦争の拡大と共にその内容は自由主義的なものから戦争賛美のものへと変わっていった。

戦後、街頭紙芝居はまた復活する。1950年頃街頭紙芝居屋さんは全国で5万人も言われている。

多くは戦争による失業者であり、日銭稼ぎのためであった。

街頭紙芝居は、1957年頃から普及しはじめたテレビの出現により街から消え、高橋五山により生まれた幼稚園紙芝居は出版紙芝居へとひきつながれていくことになるのである。

戦後の出版紙芝居、保育園・幼稚園だけでなく小学校教育にも広く取り入れられていた。しかし1967年文部省の「教材基準」からはずされたことを機に学校から紙芝居がなくなっていった。だが、公立図書館に置かれるようになり紙芝居の貸出率は現在図書館を上回ると言われている。

■ 紙芝居の魅力の秘密



紙芝居は素敵です。
子どもも、大人も、世界中の人たちも紙芝居が大好きです。
この魅力の秘密は？

紙芝居は
現実の空間に、作家の世界が出て行き広がる中で
観客が共感によって
作家の世界を自分自身のものにしていく、
その喜びによって
共感の感性が育まれていく
という
素晴らしい「特性」を
持っています。

■ 紙芝居を演じてみよう

・ 紙芝居の基本的な方法

- ① 必ず舞台をお使いください。紙芝居は動かない画と、文と、読みと、抜き方をともなう実演とが一体となって観客を楽しいドラマの世界に誘います。舞台へ入れて演じないと、抜き方の効果が期待できませんので紙芝居の楽しさは半減してしまいます。
- ② 必ず下読みをしてください。作品のテーマ、語り口、登場人物の性格などをつかんで始めないと失敗します。

- ③ 始める前に画が順番どおり揃っているか必ず確かめましょう。
- ④ 紙芝居では、抜き方が大変重要です。抜くという動きが、ドラマの進行、展開のうえで重要な役割をしますので心をこめて抜いてください
- ⑤ 紙芝居は演じての持ち前の声、調子でせりふも、老人らしく、子どもらしく演じ分ける程度がよく、オーバーな声色はかえて、動かない画面との調和を破って、ドラマを破綻させます。

- ・ 舞台と拍子木を使う
- ・ とびらを開ける。1, 2, 3、
- ・ 脚本、画、タイトルの順番で語りだす
- ・ 地の文は小さな声、会話文は大きな声で。
- ・ 紙芝居の裏等の「演出ノート」は必ず読む。
- ・ 抜き方で変化をつける
- ・ 最後の画を読んだらそのままにして扉をしめる。1, 2, 3、

「おしまい」・・・やってみよう！

